

4 指導方法の工夫

新学習指導要領では、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「知識を活用する学習活動」を積極的に授業場面に取り入れることが大切にされている。次にあげる様々な指導方法は、それぞれ特徴があり、学習のねらいや活動内容、さらに活動に要する時間などを考えた上で、適切な指導方法を選択すべきである。

指導方法	機能・特徴等	活用の例	期待される効果	活動規模
ブレインストーミング	あるテーマについて、様々なアイデアや意見を出すための活動	○ 喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけや背景 ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用の有害性、悪影響 ○ 禁煙の場所 ○ リラクゼーションの方法 ○ 課題学習での課題発見	思考力の形成 活発な意見交換	小集団
ケーススタディ(事例による学習)	日常起こりやすい状況を取り上げ、状況にかかわる心理状態や対処法等を検討するための活動	○ 喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけや背景 ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用に誘われた場合の対処	現実的な問題に関する思考力、対処能力の形成	個人 小集団 全体
ロールプレイング	ある役割に必要な能力や技術を習得したり、効果的な対処法について理解したりするための活動	○ 喫煙、飲酒、薬物乱用に誘われた場合の対処	現実的な問題への対処能力(特に技術)の形成	小集団 全体
ディベート	あるテーマについて、肯定側と否定側とに分かれ、二つのチームがルールに従って議論を行い、その結果を審判が判定する活動	○ たばこやアルコールの自動販売機の撤去の是非	思考力、判断力、表現力などの形成 活発な意見交換	全体
実験	ある仮説を実証的に検証するための活動	○ ストレス対処法の実施と効果 ○ 換気の効果	思考力、判断力の形成 対象への直接的関与	個人 小集団
課題学習	課題を発見し、解決の方法を考え、解決する学習活動	○ 喫煙、飲酒、薬物乱用の様々な影響	課題発見・探究・解決などの能力、思考力、表現力などの形成	個人 小集団
実地調査、アンケート、インタビュー	現地に赴いたり、対象者に質問したりすることにより、実態等を把握したり問題を探ったりするための活動	○ 生徒のストレス状態の調査 ○ 喫煙や飲酒のきっかけに関するインタビュー	思考力、判断力の形成 対象への直接的関与	個人 小集団
VTR、パンフレット等の活用	課題について発展的な内容も含め、視聴覚的に集約・整理した教材	○ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する基礎的内容(有害性、きっかけや背景、内外の諸対策)	正確で実感を伴う理解	個人 全体
コンピュータの活用	情報収集、双方向の意見交換、情報や資料の整理、発表のための図表等を作成するための活動	○ 国内、国外における喫煙や飲酒対	多様な情報の入手 情報処理等能力、表現力、思考力、判断力などの形成	個人
多様な教職員や外部講師の参加	専門家による専門的な情報等の提供、複数教師による綿密な支援など	○ 種々のグループワーク ○ 薬物乱用防止教室 ○ 課題学習	思考力、判断力などの形成	全体

<ブレインストーミング>

集団(小グループ)によるアイデア発想法のひとつ。参加メンバー各自が自由にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のこと。

【4つの原則】

- ① 批判をしない
- ② 奔放なアイデアを歓迎する
- ③ 質より量を重視する
- ④ 他のアイデアを修正、改善、発展、結合する



【進め方の例】

- ① 付箋(アイデアをひとつずつ書くためのもの)を一人10枚程度配る。
- ② スタートの合図で各自付箋にアイデアを書きながら、それを声に出して読み上げる。(4つの約束を守る)発表は思いついた人から行う。司会は設けない。
- ③ 書かれた付箋を机上へ置いていく。

※「課題解決法のアイデアを出す」「課題を確認する」「イメージを整理する」などの場面で活用できる。

<ケーススタディ>

日常で起こりそうな架空の物語で場面を設定し、学習者がその主人公の立場に立ち、登場人物の気持ちを考え、または行動の結果を予想したり、主人公がどのように対処(態度や行動)すべきかについて考えたり話し合う学習のことである。

学習者は、架空の人物について話し合うため、自分の個人的な経験を暴露したり気恥ずかしい思いをしたりする心配が少ないことから、学習者の率直な気持ちや考えを引き出すことが容易になる。

【留意点】

- ① 学習者に自由な発想と十分な時間を保障し、批判的な思考や創造的な思考を促す問いかけをすること。
- ② 授業の「展開」では、「もしあなただったら」という問いかけは避け、物語の登場人物について考えさせる。
- ③ 教師にとって都合のよい特定の考えや価値観を強引に押しつけないこと。
- ④ 授業の終わりにまとめとして、ありがちな結論を性急に位置づけないこと。
- ⑤ 学習者にすばらしいアイデアや考え、または正しい回答を求めることよりも、学習者自身が自分なりに思考し、他の人の考えを知ってさらに思考を深めるといった過程を重視すること。

<ロールプレイング>

ロールプレイングは、役割演技法とも呼ばれ、個人の心理療法や対人関係の改善、リーダーシップの訓練などに幅広く用いられる。喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性教育、心の健康などで行われるロールプレイングは、周囲の人々からの圧力への対処能力を高めるものであり、対人関係の改善や対人関係能力の習得に関わるものと言える。生徒が、現在あるいは近い将来遭遇する可能性の高い状況(たばこを勧められる等)を取り上げ、そこでの効果的な対処法を考えたり、実際に練習したり演じたり、それらについて振り返ったりすることにより、対処能力を向上させる。

【ロールプレイングの目的】

- 自分自身や他の生徒の対人関係に関連する知識や能力を評価する。
- 対処能力を向上させたり、対処の仕方を練習したりする。
- グループ全員、あるいはクラス全員の協力のもと、有効な対処策を幅広く明らかにする。
- 他の生徒の演技を観察することにより、効果的な対処法を学習する。

【実施上の留意点】

- たばこを勧めるなど好ましくない役は、原則として生徒にはさせない。
- たばこなど本物を小道具として使わない。
- 教師が勧める圧力を強めて、生徒が対処できなくなるほど追い込まない。
- 勧め方の印象が強く残ってしまわないように、勧め役の教師はあまりに巧みな演技をしない。
- 演技自体が目的化され、演技指導に陥らない。
- 生徒の演技の問題点ばかりを指摘しない。
- 観察者である生徒が単なる傍観者にならないようにする。

【進め方の工夫】

(1) 進め方

- ① ロールプレイングに参加しやすい雰囲気作りを行う。
- ② ロールプレイングの目的や進め方を確認する。
- ③ 小グループに分かれて、対処スキルを向上させるための練習をする。
- ④ 教師は、演技者と観察者にそれぞれの課題を説明する。
- ⑤ 最初のグループの代表がみんなの前でロールプレイングを行う。
- ⑥ ロールプレイング後、演技の終了を明確にするために、教師は演技者の役割を解く。
- ⑦ 演技者と観察者は課題に答える。必要に応じて、観察者が意見を発表したり、再度ロールプレイングを行ったりする。
- ⑧ ⑤～⑦をグループの数だけ繰り返す。
- ⑨ まとめでは、自己主張コミュニケーションの特性、多様な対応が存在することなどを確認する。

(2) セリフづくりの意義

- 基礎的内容の学習(喫煙の有害性、開始要因等)を応用できる。
- 人から圧力を受けた場面で、何を言うべきか、どう表現するかを明らかにする。
- 書いた内容が、攻撃的か、受動的か判断できる。
- 有効な対応が、多様に存在することを確認できる。

(3) ロールプレイング直後の検討

- 演技者に対する質問
 - ・ 演じた後の感想を述べる。
 - ・ 演じる際に工夫した点(セリフの内容や伝え方)を述べる。
 - ・ 困った点、うまくいかなかった点などがあった場合には述べる。
- 観察者に対する質問(演技のよかった点を上げる。)
 - ・ 断るセリフが明確 ・ 声が大きかった ・ ボディーランゲージが活用されていた。
 - ・ 自然体であった。 ・ その人らしさが出ていた。 ・ 断固とした態度だった。
 - ・ アイデアが素晴らしい など